

奨励賞・U40 建築賞



設計担当者

川口琢磨

川口琢磨建築設計事務所、東京建築士会



共同設計者

高橋朋之

KAJIMA DESIGN、東京建築士会

戸建住宅／東京都豊島区

雑司が谷 高橋邸

構造 | 壁式鉄筋コンクリート造
+木造(平面混構造)

階数 | 地上3階+塔屋

敷地面積 | 47.52㎡

建築面積 | 26.75㎡

延べ面積 | 73.63㎡

竣工年 | 令和2年



1



3



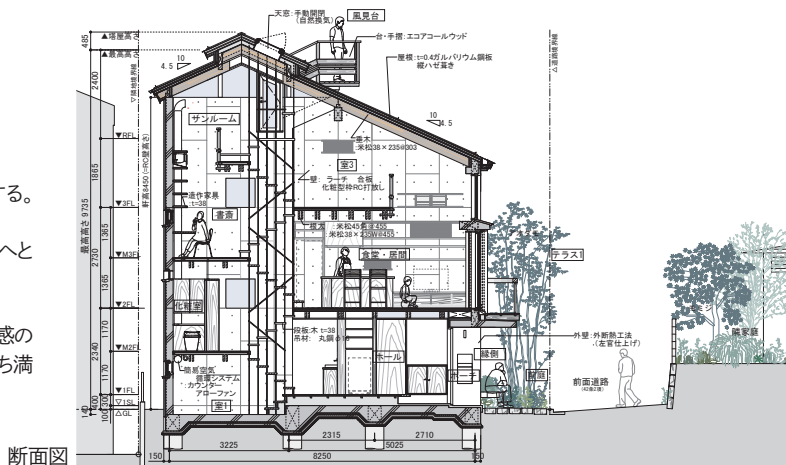
4



2

- 1 建物外観。木造密集市街地のY字に分岐する道路の付け根に位置する。RC造+木造の混構造であるが、木造のような佇まい
- 2 室3から居間越しに外の景色を見る。勾配屋根により外への視線は下方へと導かれ、3階からも前面道路を挟んだ向かいの家の庭を借景する
- 3 2階居間から食堂・台所および3階室3を見る
- 4 3階室3よりサンルームを見る。針葉樹合板型枠による力強いRCの量塊感の中、木架構の隙間に光が回り、風が抜け、家族の気配や街の賑わいが充ち満ちていく

写真…稲継泰介



断面図

選評

住所を告げるとドライバーはカーナビに入力した。目的地に着けるかという心配は無用だった。AIが案内する道は細くて複雑でナビなしでは普通は到達不可能だ。先の大戦の東京大空襲の折、この雑司が谷地区は比較的被害は少なかったという。おかげで戦前の街並みがそのまま残されて、豊かな起伏とともに歴史の情緒を感じるが、一方それ故に木密地区のリスクは大きい。そのため大半のエリアに防火規制区域が指定されていて準耐火構造以上の防

災性能が求められる。街のスケールや風景が変わっていくことは必然の流れと言えよう。

敷地は坂道のY字型の交差点に面して視野が開けている。周辺の住宅群の昔ながらの風景を継承するため、周辺に溶け込む左官仕上げや木質の開口部にこだわりが見える。防火規制区域でのあり方として作者は古来の蔵の性格を重ねて、耐火性能の高いコンクリートの外壁と木造の内部空間とを組み合わせる「準耐火ロー1」の構造を取り入れた。外壁の

コンクリートは耐火性だけでなく、耐震性、遮音性、断熱性を力強く受け持つ。屋根を含む木造部分は優しい質感と心地よい空間創りに寄与。室内の空間は制約から解放され、吹抜けや階段によって大らかな住空間となった。精緻なディテールは、コンクリートと木造の接続部など随所に見ることができ、木目の型枠の処理と相まって住み心地の良さを演出している。

(可児才介)